

## ま え が き

下伊那視聴覚教育協会 会長 武井 利博

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類となり行動制限がなくなったので、下伊那視聴覚教育協会の活動もコロナ禍前の活動に戻すことにしました。その中で一番大きな取り組みは、下伊那視聴覚教育協会定期総会の4年ぶりの参集による開催でした。私を含め、情報・視聴覚委員でコロナ禍前の定期総会を知っている委員が数人しかいなかったり、過去の画像データがなかったりしていたので苦労しました。しかし、皆様のご協力のおかげで無事開催することができました。ありがとうございました。

では、なぜ参集による開催に踏み切ったか。コロナ禍時の総会は総会資料を各校に送り紙面議決を行っていました。正直このやり方の方が楽でした。書面議決では、議案書の紙面に字は残りますが、多くの先生方が関わらなくなることで下伊那視聴覚教育協会の存在意味の継承がされなくなり、何のためにこの下伊那視聴覚教育協会が存在しているのかがあやふやになることを恐れました。だから参集にしました。今後も引き続き参集による定期総会の開催を継承してもらえればと思います。

それからもう1つ、今年度大きな取り組みをスタートさせました。それは、「令和7年度 第57回長野県視覚・放送・情報教育研究大会 下伊那大会」に向けて動き出したことです。長野県視覚・放送・情報教育研究大会 下伊那大会は北部地区の小中学校で行われます。会場予定校は、松川中央小学校、高森南小学校、豊丘南小学校、喬木第一小学校、松川中学校、喬木中学校となります。研究の方向としては以下のとおりを考えています。

### 1 下伊那大会の研究の基本方針

一人一台端末のより有効な活用方法→「対話的な学び」を中心とした取り組み

### 2 理由

- (1) 「対話的な学び」については、飯田市、喬木村が信州大学名誉教授 東原義訓先生のご指導をいただいている。
- (2) 一人一台端末を活用して子どもたちの思考を「広め、深める」授業実践がまだ少ないため。
- (3) 今までの県視覚・放送・情報教育研究大会は、どちらかというとも真新しい視聴覚教材やソフトを使って視聴覚機器を使ってこんな効果があったという授業が主流であったが、一人一台端末を使っての調べ学習、プレゼンテーション、カメラ機能活用等普通に行われているため、提案性がない。

長野県視覚・放送・情報教育研究大会 下伊那大会は北部地区で行われますが、下伊那全郡を

上げて取り組んでいきたいと思えます。先生方、ご協力の程よろしくお願ひします。

最後になりましたが、下伊那視聴覚教育協会では、各市町村からいただいている負担金をもとに、毎年DVD教材を購入・更新して下伊那教育会館別館にある視聴覚ライブラリーで貸出しをしています。下伊那教育会のホームページからそれらの教材を閲覧することができますし開館日時も確認できます。こちらも是非ご活用ください。

# 体育科学習指導案

追手町小学校 5 学年

男子 6 名 女子 14 名 計 20 名

## 1 単元名

「マット運動、技を極めろ！ 見て・聞いて・挑戦してレベルアップ！」

## 2 児童の実態・単元設定の理由

5 年生は男女問わず仲が良く、単級ということもあり 1 年生から一緒に過ごしてきており、お互いのことをよく理解している子ども達である。休み時間になると教室で友だちと過ごしたり、低学年の教室に遊びに行ったりする児童が多い一方で、校庭や講堂で遊ぶ・体を動かす姿はあまり見られない。また、体育の授業に対しては、きまりやルールを守りながら楽しむことができるが、女子児童を中心に、運動にやや抵抗をもつ姿も見られる。また、今回行うマット運動に関してアンケートをとると以下の結果となった。

好き	どちらかという 好き	ふつう	どちらかという 嫌い	嫌い
2 人	2 人	7 人	2 人	7 人

マット運動に対して、良いイメージをもっていない児童がクラスの半数近く見られた。しかし、4 年生のマット運動では休み時間に自主的に練習に取り組み、友だちと一緒に技能を高めようとする姿が見られた。苦手意識はもちつつも、できるようになりたい、上達したいと前向きに取り組む素地をもった子ども達である。

今年度、5 年生は組体操に初めて挑戦した。最初の頃は、うまくいかなかった技も練習を重ねるうちに上達を見せ、本番では大きな達成感をえることができた。補助倒立に難しさを感じていた A さんは、休み時間にペアの友だちと繰り返し練習をする姿が見られた。ペアの児童が体調不良で補助倒立の練習ができない時にも他の児童の取り組みを見ながら補助倒立について考えを巡らせる姿が見られた。A さんのその日の日記にはこのように書かれていた。

少しでも倒立が綺麗にできるように努力をされていてどうすればいいのだろうと思って今日一回みんなが倒立をやっているところを見ました。そしたら、手をしっかり曲げないようにすればいいんだ。と思いました。倒立のコツを知ってもっときれいにできるようにして運動会で披露したいです。頑張りたいです。

A さんはその後も練習を重ね、運動会本番では補助倒立を成功させることができた。運動会の振り返りには以下のような記述が見られた。

運動会で一番頑張ったことは、組体操です。組体操を運動会で初めてやるので緊張しました。最初の組体操の練習は、とても怖くて恐怖しかありませんでした。だけどだんだん練習しているうちに組体操が楽しめるようになりました。でも一番大変だった技は、倒立でした。倒立が苦手で家で練習したり学校で練習したりしました。運動会当日では、倒立が成功したので嬉しかったです。

今回、A さんが倒立を成功させることができた一つの要因は、友だちの取り組みを見てそこから倒立のコツを知ることができたことが考えられる。友だちの姿をもとに練習を繰り返し、運動会本番では大きな達成感をえることができた。そこで、補助倒立等マット運動の要素も含まれていた組体操を、本単元のマット運動へとつなげ、友だちの姿やアドバイスをもとに技能を高めていく姿を大切にしていきたい。また、そういった技能の高まりを ICT 機器等を使いながら自分自身が実感することで、少しでもマット運動への抵抗が少なくなり、更に運動会の組体操の時のように、できるようになる喜びや、友だちと一緒に技能を高めていく楽しさを子ども達に感じてほしいと願い本単元を設定した。

楽しさは①できるようになる (レベルアップ) 喜び ②友だちと一緒に技能を高めていく

## 3 単元の目標

- (1) 回転系や技巧系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、ICT 機器を活用したりして、自己や仲間の考えたことを他者に伝え、受け止めることができるようにする。 【思考力・表現力・判断力等】
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取り組みを認め、成長を喜び合ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】

## 4 評価規準

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
(ア) マット運動の技のポイントについて理解したことを、言ったり実際に動いたりしている。	(ア) クロムブックで撮影した映像や仲間からのアドバイスをもとに、自己の課題や技のポイントを見付けている。	(ア) マット運動に積極的に取り組もうとしている。
(イ) 基本的な回転技・巧技を安定して行うことができるようにする。	(イ) 見付けた課題を解決するために、自己の課題に適した練習や方法を選んでいる。	(イ) 約束を守り助け合って運動をしようとしている。
(ウ) 基本的な技の発展技	(ウ) 観察し合ったり、ICT 機器を活用したりして、課題の解決のために自己や仲間の考	(ウ) 場の準備や片付けを仲間とともにしようとしている。
		(エ) 仲間の考えや取組を認め、互いの成長を喜び合っている。
		(オ) 場の安全に気を配っている。

<p>を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。</p>	<p>えたことを他者に伝え、受け止め、更に良い解決策を生み出そうとしている。</p>	
---	--	--

5 単元展開 (全8時間 本時第6時)

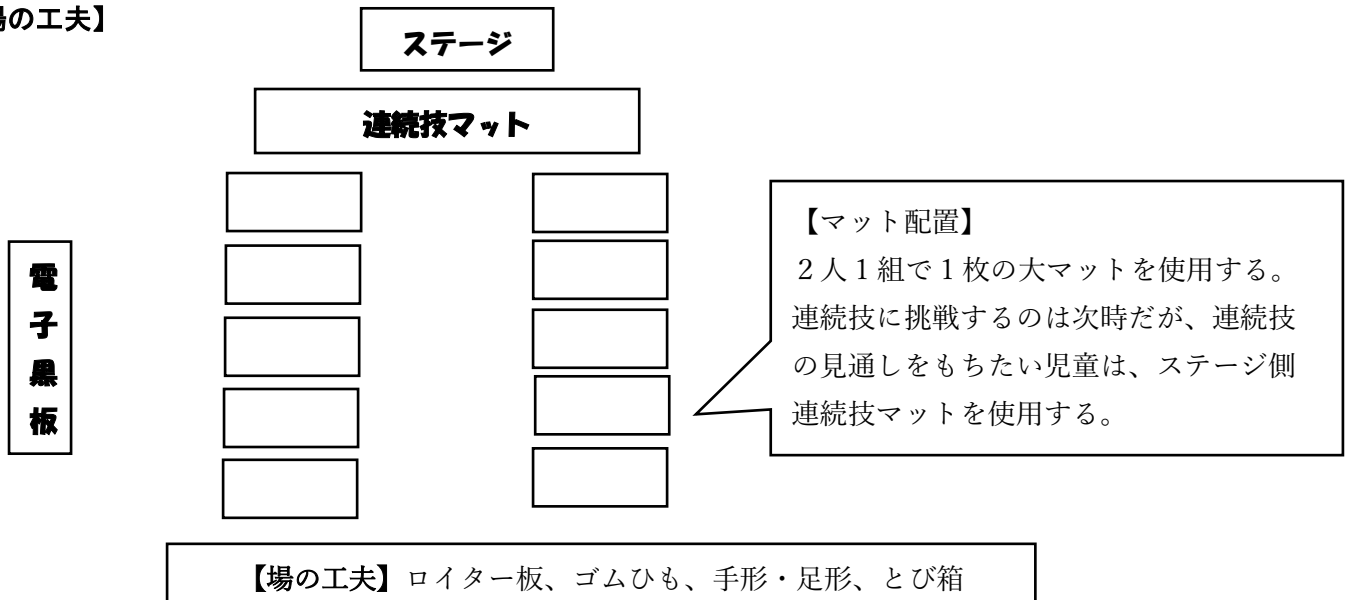
段階	学習活動	教師の支援・評価	時間
はじめ	<p><b>〇オリエンテーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マット運動で行う準備運動の動きを紹介する。</li> <li>・本単元で扱う技を紹介したり挑戦したりしながら、単元のゴールを示す。</li> <li>・学習の進め方や約束を知る。</li> <li>・マットの配置場所を確認し、準備の仕方を知る。</li> <li>・ドリルの仕方を知る。</li> </ul> <p>【ドリル】(ゆりかご、カエルの足打ち、川とび、補助倒立、簡単な連続技等)</p> <p>【本単元で扱う技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前転 ・後転 ・とび前転・開脚前転</li> <li>・開脚後転・側方倒立回転 ・ロンダート</li> <li>・膝後転 ・補助倒立 ・補助倒立前転</li> <li>・倒立前転</li> </ul>	<p>・スムーズにできる児童に技を披露してもらうなどして、技のイメージをふくらませる。</p> <p>・実際に動きを見せながら説明をする。</p> <p>・黒板、または電子黒板に単元計画を提示し、学習の流れをつかめるようにする。</p> <p>・単元のスタートは運動会の補助倒立のペアでスタートする。その後、技能差や選択した技によってペア分けを検討していく。</p>	1
	<p><b>単元のゴール</b> 技のポイントを意識しながら、3つ以上の技を連続させ、マット運動を楽しもう。</p>		
なか①	<p style="text-align: center;"><b>ねらい①</b> 技のポイントを見つけよう。</p> <p><b>〇本単元で扱う技に挑戦しながら、技のポイントを見つけ出し、ポイント集(ジャムボード)を作っていく。</b></p> <p>〈ポイントを知る手がかり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード ・友だちの姿等 ・撮影した動画</li> <li>・お手本動画</li> </ul> <p><b>〇自分がこれからの練習で挑戦したい技を決める。</b></p>	<p>・うまくできている子の動画をもとに、技のポイントを見つけ出す。</p> <p>・「まっすぐ回れない」「足が伸びない」などの課題が出たときに「どうしたらできそうかな」などと問いかける。</p> <p>・できるための体の動かし方が分からない児童に、教師がポイントになる部分をやったり、ペアでの補助の仕方を伝えたりする。</p> <p>・発見した「技のポイント」を全体で共有し、ポイント集にまとめる。</p> <p>・動きを確認しやすい撮影の仕方を確認する。</p>	2 3 4
	<p><b>ねらい②</b> 自分が選んだ技をレベルアップさせよう。</p>		
なか②	<p><b>〇挑戦する技のポイントを見返す。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを見たり、全体で共有した「技のポイント集」を見返したりする。</li> <li>・上手にできる友だちの動画を見て、技のポイントを確認する。</li> </ul> <p><b>〇次時に向けて自分の課題を見付ける。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の段階の様子をクロムブックで撮影し、自分の課題と、これからの練習方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題が決め出せない児童に対し、一緒に動画を見ながら助言をする。</li> <li>・「スモールステップ」で練習を組み立てていく方法や、練習の場の工夫について伝える。</li> <li>・同じ技を練習する人とペアをつくる。</li> </ul>	5 6 7 本時
	<p><b>ねらい③</b> 自分が選んだ技を組み合わせ、連続技に挑戦しよう。</p>		
まとめ	<p><b>〇自分が選んだ技を組み合わせ、連続技に</b></p>	<p>・ペアを組んで助言をしたり、補助をしあった</p>	8 9

	<p><b>挑戦する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技のポイントを意識して練習する。</li> <li>・ペアの友だちに、自分のめあてや選んだ技について伝える。</li> <li>・取り組みの様子をクロムブックで撮影し、体の使い方がとらえられるようにする。</li> <li>・単元のまとめとして、連続技の完成動画を撮影する。</li> <li>・技ができるようになった喜びや、友だちと一緒に技能を高めていく楽しさが感じられるよう、単元の最初の姿と終末の姿を見比べ、自分自身の成長を実感できるようにする。</li> </ul>	<p>りできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を撮る場合は、ポイントとなる箇所が分かるような角度で撮ることを伝える。</li> <li>・クロムブック「模範動画と自分の試技動画」を比較し、技のポイントを確認し合いながら、技をレベルアップさせていけるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="810 304 1398 488" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ペアの友だちと観察し合い、学習の仕方や約束を守りながらアドバイスをし、試技をすることができたか。  (1)-アイウ (2)-ウ (3)-イオ</p> </div>	
--	---	---	--

**【ICTのポイント】**

- ・自分の動きを知る。
- ・自身の変化・成長を認知、自覚する。
- ・細部の動きを分析的に振り返る。
- ・友だちと関わり合いながら、技のポイント集や動画を共有し、ポイントを意識した練習につなげる。

**【場の工夫】**



**【ドリル学習（身につけたい技能・感覚）】**

- ・ゆりかご（回転感覚・順次接触）
- ・かえるの足うち（腕支持感覚）
- ・川とび（腕支持感覚）
- ・補助倒立（腕支持感覚・逆さ感覚）
- ・簡単な連続技（基礎的技能）

**【本單元における共通言語（共有したい言葉）】**

- ・レベルアップ（大きく・伸びる・なめらか・止める・できる・ダイナミック）
- ・技の名前（本單元で取り組む技の名前）
- ・技の分類（回転・開脚・伸膝）
- ・ドリル技
- ・技のポイント

## 6 本時案

### (1) 単元名

「マット運動、技を極めろ！ 見て・聞いて・挑戦してレベルアップ！」

### (2) 主眼

挑戦する技を決め、自分が挑戦する技の課題を見つけた子ども達が、更に一つ一つの技をレベルアップさせるために練習する場面で、友だちとアドバイスをし合ったり、撮影した動画、ポイント集をもとに自分の姿を見返したりする活動を通して、マット運動を楽しむ。

### (3) 本時の位置 (全9時間中の第7時)

前時：自分が選んだ技のポイントを知り、課題を見つけ、課題解決のための練習方法を確認した。

次時：選んだ技を組み合わせ連続技に挑戦し、課題を見つける。

### (4) 指導上の留意点

- ・特に危険な技については、教師が補助に入り、安全に行えるよう支援する。
- ・活動が停滞しているペアには、クロムブックのポイント集やお手本動画を確認するよう声がけする。

### (5) 展開

段階	学習活動 予想される児童の反応 (「」)	教師の支援・評価	ICT 活用	時間
はじめ	<b>1 場の準備をする。</b> ・講堂に来た児童から、マットの準備を始める。 <b>2 ペアストレッチをする。</b> <b>3 ドリルをペアで行う。</b> ・ゆりかご・カエルの足打ち・かわとび・補助倒立・簡単な連続技 <b>4 授業の見通しをもつ。</b> 「今日も、レベルアップを目指して取り組もう。」	・安全に留意し、協力して準備をさせる。 ・ペアで体をほぐすように声がけをする。 ・音楽を流し、楽しい雰囲気で行えるようにする。 ・音楽が終わるまでに行えるよう声がけする。 ・前時の活動を振り返り、本時の活動に見通しをもたせる。	・電子黒板にマット配置図を示す。 ・電子黒板にペアストレッチ、ドリル内容を示す。 ・電子黒板に前時の振り返りを示す。	8  5
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>学習問題</b> 自分が選んだ技のレベルアップを目指そう！                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>【レベルアップの視点】</b>                      ・大きな動き                      ・伸び                      ・なめらかな動き                      ・止まる                      ・できていない所ができた                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>学習課題</b> 友だちに動画を撮影してもらい、ポイントができていないか確認したり、アドバイスをもらったりしてレベルアップを目指そう！                 </div>	・前時の振り返りを紹介し、本時も友だちのアドバイス、動画撮影に意識が向くようにする。		
なか	<b>5 前時に見つけた自分の課題と練習方法をペアで確かめ合う。</b> 「後転の時に頭の横に手のひらをついて回れるようにしたい。」	・何のために課題を確認し合うか子ども達に示し、課題を中心にアドバイスができるように声がけをする。	・前時の学習カード(クロムブック)を確認する。	2
	<b>6 技のレベルアップを目指して試技を行う。(レベルアップタイム)</b> 「まだまだ、手の付き方がうまくいってないよ。」 「勢いが足りなくて最後までいけないから、どうしたらいいかな。」 「〇〇さんのアドバイスを聞いて練習したら昨日よりもうまくできたよ。」 「もっと、体を丸めてやってみたらどうかな。」 「お手本の動画と比べると、〇〇ができていないよ。」 「今日のまとめの動画を撮影しよう。」	・動画を撮る場合、ポイントとなる箇所が分かるような角度で撮ることを伝える。 ・改善が難しい児童には、教師又はペアの児童による補助をしたり、直接改善のポイントを伝えたりする。 ・改善が難しい児童には、改善につながる練習方法を提案する。 ・アドバイスに目が向かない児童には、友だちとの関わりが上達の大きな支援となることを伝えたり、一緒にアドバイスをしたりする。 ・よい関わり、技が上達しているペアを取り上げ全体で共有する。	・クロムブックで動画を撮影し合う。 ・本時までには作りためたポイント集を参考にする。	2 0

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の動画を撮影するように声をかける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         友だちのアドバイスや、撮影した動画、ポイント集をもとに、自分の姿を見返したりする活動を通して、マット運動を楽しんでいる。       </div>		
おわり	<b>7 かたづけ</b>  <b>8 本時のふりかえりをする</b> 「前の時間に見つけたうまくかない所が、友だちにアドバイスをもらって、うまくできるようになりました。」 「動画を見て、補助倒立の足が伸びていなかったけど、友だちと繰り返し練習して、今日の動画では足が伸びていたのよかったです。」 「次回は、連続技を頑張りたいです。」  <b>9 挨拶</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を流し、その時間内で片付けができるようにする。</li> <li>・安全に留意し、協力して片付けをさせる。</li> <li>・児童の姿や発言から、よい気付きがあったものを全体に広めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロムブックで振り返りを記入する。</li> </ul>	10

(6) 参観の視点

- ・動画を撮って自分の動きを確認したり、模範動画と比較したりすることは、マット運動を楽しむ姿につながっていたか。

7 教材研究

(1) 本時にかかわる視聴覚教材・機器利用目的

使用する視聴覚機器	目 的
電子黒板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で共有したい動きを取り挙げて、良さや工夫を皆に広げるため。</li> <li>・前時のふり返りを紹介するため。</li> </ul>
クロムブック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の動きを撮影し、課題にしている技のポイントができていないか振り返られるようにするため。</li> <li>・いつでも各技の模範動画と自分の動きを比較できるようにするため。</li> <li>・子ども達が作りためてきたポイント集をいつでも確認できるようにするため。</li> </ul>

(2) ICT機器の活用について

【動画撮影について】

自分自身の技のポイントができていないか確認をするために撮影を行う。また、授業の終末ではパドレットに動画を投稿し、友だちと、その動画を共有する。パドレット上で、友だちの動画をいつでも見ることができる。

【ポイント集について】

ジャムボードを使って、本単元で挑戦する技のポイント集を作成する。子ども達の気づきや声をもとに作成し、常に確認ができるようにする。

【お手本動画について】

教師が本単元で取り組む技のお手本動画を用意する。自分自身の姿とお手本動画を比較し、課題を見つけたり、レベルアップの手掛かりとしたりする。

【学習カードについて】

スライドを使って、学習カードを用意する。スライドに本時のふり返りと合わせて動画を載せ、自分自身の成長を実感したり、自分自身の学びを蓄積したりするために使用する。

社会科学学習指導案

1. 日時 令和5年11月14日(火) 第5校時 13:30~14:20
2. 単元名 「民主政治と政治参加」(公民的分野C私たちと民主政治(2))
3. 授業 「地方自治」
4. 授業学級 3年3組 【会場: 西音楽室】
5. 指導者 南信教育事務所指導主事 田代 佑夏 先生
6. 授業者 飯田市立高陵中学校 社会科 腰原 誠

1. 単元設定の理由

3年3組の生徒は、課題に対して、教科書や与えられた資料を読み込み、必要に応じてタブレットで調べ、学習カードに言葉でまとめることができる生徒たちである。しかし、社会的事象に興味がある生徒とそうでない生徒にはっきり分かれており、学習内容に沿って既得している知識などから、予想を立てて学習に取り組もうとする生徒が見られる反面、前時と本時の内容が繋がらず、苦手意識の強い生徒も見られる。生徒が社会的事象の関連性を意識してさらに考えることができるようにしたいと考え、提示する資料の精選、学習カードの工夫やタブレットを活用した学習形態の工夫などを重点として授業づくりを行ってきた。

歴史的な分野の近現代の学習では、第二次世界大戦へいたるまでの国際関係を構造化させることを通して、日本と世界の国々との関係性の変化について視覚的に捉え、社会科に対して苦手意識の強い生徒も既習の事項を関連づけながら歴史の流れをつかむことができた。また、日本の国際的地位の変化の要因について考えることで、現代社会における国際関係についても着目して捉えようとする姿が見られた。一方で、敗戦という事実や地位の変化については捉えることができている、そこに至るまでの背景について多面的・多角的に捉えることが難しい生徒の姿も見られた。

本単元では、対立と合意、効率と公正といった現代社会を捉える見方・考え方や個人の尊重と法の支配について学習してきた生徒たちが、その視点に着目しながら民主政治のしくみや政治参加の方法について理解していくことで、現代社会における課題を解決していくための行動について学ぶことができる。国政と地方自治で2度模擬選挙を行うことで、より身近な地域課題について関心を持ち、解決に向けた行動についてこれまでの既習事項を生かしながら主体的に考えることができると考えた。また、候補者の公約を比較・検討してから投票を行うことで多面的・多角的に考察し、判断する力をつけることにつながると考え、本単元を設定した。

2. 単元名 「民主政治と政治参加」(公民的分野C私たちと民主政治(2))

3. 単元目標

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国政における民主政治のしくみやあらましと地方自治の基本的な考え方について理解する。民主政治を発展させるための国民の政治参加のあり方について、公約の検討や模擬投票から多面的・多角的に考察、構想し、表現するとともに、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

4. 評価規準 「民主政治」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや生徒の役割を理解している。</li> <li>・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対立と合意、公立と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治を発展させるための国民の政治参加のあり方について多面的・多角的に考察・構想し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主政治と政治参加について現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に考え、社会に関わろうとしている。</li> </ul>

5. 単元展開

時 評価	○学習内容	・指導
1	<b>大単元の学習問題</b> ：みんなが暮らしやすい社会をつくるために、どのように政治参加すればよいか？	
国	○単元の学習問題に対する予想を行う。	・前半「国の政治」後半「地方自治」の2つの学習を通して、単元の学習問題に対して考えるよう促す。
2	<b>小単元①の学習問題</b> ： みんなが暮らしやすい社会をつくるために、国はどのような政治をしているのだろうか？	
知 技	<b>学習問題</b> ：国民の願いを実現するための方法は、どのように決めているのだろうか？ <b>学習課題</b> ：「国会のしくみ」と「国会の議員の役割」に着目してまとめよう。 ○「国会のしくみ」として、「直接民主制」と「間接民主制」の違いについて追究する。 ○「国会議員の役割」について追究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国会のしくみ」と「国会議員の役割」について追究できるように学習課題を設定する。</li> <li>・「直接民主制」と「間接民主制」のそれぞれのメリットとデメリットを考え、国会が議会制民主主義の制度を採用していることについて確認する。</li> <li>・「国会議員の役割」について学習することを通して、政治参加の一つ「選挙」について確認する。</li> </ul>



3 知 技	<b>学習問題：</b> 「マスメディア」と「政党」は、どのように政治と関わっているのだろうか？ <b>学習課題：</b> 「マスメディアと政治」、「政党と政治」の関係に着目してまとめよう。 ○「マスメディアと政治」の関係について追究する。 ○「政党と政治」について追究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「マスメディアと政治」、「政党と政治」について追究できるように学習課題を設定する。</li> <li>世論と政治を結ぶ役割として「マスメディア」が存在することを確認する。</li> <li>「マスメディア」の情報を判断する「情報リテラシー」が求められていることを確認する。</li> <li>国民の様々な意見を政治に反映させる役割として「政治」が存在することを確認する。</li> <li>複数の政党の中から自分の考えに近い政策の政党を選ぶことが政治参加の一つになることを確認する。</li> </ul>
4 知 技	<b>学習問題：</b> 国の政治において、選挙はどのようなしくみになっているのだろうか？ <b>学習課題：</b> 選挙シミュレーションを通して、候補者の選挙公約を観点ごと評価して、どのように当選するかを確かめよう。 ○選挙の「4つの原則」について追究する。 ○「選挙制度」について追究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「選挙のしくみ」について追究できるように学習課題を設定する。</li> <li>歴史的分野で学習した選挙の様子を振り返り、現在の選挙の「4つの原則」について確認する。</li> <li>「選挙制度」について、選挙シミュレーションを通して確認する。</li> <li>2015年の公職選挙法の改正によって、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下がったことを確認する。</li> </ul>
5 知 技	<b>学習問題：</b> 国会はどのような仕事を、どのようなしくみで行っているのだろうか？ <b>学習課題：</b> 「国会の仕事」、「国会のしくみ」、「国会の現状と課題」を表にまとめよう。 ○「国会の仕事」について追究する。 ○「国会のしくみ」について追究する。 ○「国会の現状と課題」について追究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国会の仕事」、「国会のしくみ」、「国会の現状と課題」について追究できるように学習課題を設定する。</li> <li>前単元で学習した三権分立を振り返り、「国会の仕事」について確認する。</li> <li>「二院制」や「衆議院の優越」を軸に、「国会のしくみ」について確認する。</li> <li>「法律の制定」を軸に、「国会の現状と課題」について確認する。</li> </ul>
6 知 技	<b>学習問題：</b> 国民の要望を実現するために、内閣はどのような仕事を、どのようなしくみで行っているのだろうか？ <b>学習課題：</b> 「内閣の役割」、「内閣のしくみ」、「行政の現状と課題」を表にまとめよう。 ○「内閣の仕事」について追究する。 ○「内閣のしくみ」について追究する。 ○「行政の現状と課題」について追究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「内閣の仕事」、「内閣のしくみ」、「行政の現状と課題」について追究できるように学習課題を設定する。</li> <li>前単元で学習した三権分立を振り返り、「内閣の仕事」について確認する。</li> <li>「内閣総理大臣と国務大臣の関係」や「議院内閣制」を軸に、「内閣のしくみ」について確認する。</li> <li>「行政権の拡大」を軸に、「行政の現状と課題」について確認する。</li> </ul>
7 知 技	<b>学習問題：</b> 裁判所はどのような仕事を、どのようなしくみで行っているのだろうか？ <b>学習課題：</b> 「裁判所の役割」、「裁判のしくみ」、「裁判の現状と課題」を表にまとめよう。 ○「裁判所の仕事」について追究する。 ○「裁判のしくみ」について追究する。 ○「裁判の現状と課題」について追究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「裁判所の仕事」、「裁判のしくみ」、「裁判の現状と課題」について追究できるように学習課題を設定する。</li> <li>前単元で学習した三権分立を振り返り、「裁判所の仕事」について確認する。</li> <li>「民事裁判と刑事裁判の違い」や「三審制」を軸に、「裁判のしくみ」について確認する。</li> <li>「司法制度改革」と「裁判員制度」を軸に、「裁判の現状と課題」について確認する。</li> </ul>
8 国 ・ 思 判 表	<b>学習課題：</b> 小単元①の学習問題に対するまとめを、「マスメディアと政党の政治との関わり」「国会・内閣・裁判所」の2つの要素に着目して、スプレッドシートにまとめよう。 ○小単元①の学習問題に対するまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治参加の一つが「選挙」であることや、複数の政党の中から自分の考えに近い政策の政党を選ぶことが政治参加の一つになることを確認する。</li> <li>「国会・内閣・裁判所の仕事やしくみ、現状と課題」を通して、国の政治と自分たちの生活がどのようにつながっているかを確認する。</li> </ul>
9 ・ 10 知 技	<b>小単元②の学習問題：</b> みんなが暮らしやすい社会をつくるために、地方自治は何をしているのだろうか？	
	<b>学習問題：</b> 地方公共団体はどのような仕事を、どのようなしくみで行っているのだろうか？ <b>学習課題：</b> 「地方公共団体の仕事」「地方公共団体のしくみ」「地方財政の現状と課題」を表にまとめよう。 ○「地方公共団体の仕事」について追究する。 ○「地方公共団体のしくみ」について追究する。 ○「地方財政の現状と課題」について追究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地方公共団体の仕事」、「地方公共団体のしくみ」、「地方財政の現状と課題」について追究できるように学習課題を設定する。</li> <li>住民が自らの意思と責任で地方の政治に取り組むしくみが「地方自治」であることを確認する。</li> <li>「自主財源」と「依存財源」を軸に、「裁判の現状と課題」について確認する。</li> </ul>

11 ・ 12	<b>学習問題：</b> みんなが暮らしやすい飯田市をつくるために、3人の候補者に対して、誰に投票すれば良いのだろうか？ <b>学習課題：</b> 候補者の選挙公約を自分の一番関心のある項目に着目して、様々な立場から評価し、誰に投票すれば良いかを判断しよう。 ○「政治参加の方法」について追究する。 ○「選挙公約」に関心ある項目に沿って個人評価する。 ○「選挙公約」に関心ある項目に沿って個人評価したものを共有し合う。 ○「選挙公約」に関心ある項目に沿って個人評価したものを共有した後、再度個人で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「候補者の選挙公約を自分の一番関心のある項目に着目して、様々な立場から評価し、誰に投票すれば良いかを判断」できるように学習課題を設定する。</li> <li>若い世代の投票率が他の世代より低い傾向が続いていることや、若者の多くが投票を棄権していることを確認する。</li> <li>若者の意見を政治に反映していくためには、今まで以上に積極的な政治参加が求められていることを確認する。</li> <li>「選挙公約」を個人評価する際に、関心のある項目を評価するように促す。</li> <li>同じ項目でも様々な視点から読み取り評価することで、他者の評価と異なる場面に出会い、立場によって見方や考え方が異なることを大切にするよう促す。</li> </ul>
13	<b>学習課題①：</b> 小単元②の学習問題に対するまとめを、「地方公共団体のはたらき」「3人の候補者に対する投票」の2つの要素に着目して、スプレッドシートにまとめよう。 ○小単元②の学習問題に対するまとめを行う。 <b>学習課題②：</b> 大単元の学習問題に対するまとめを、「国の政治」と「地方自治」の2つの要素に着目して、スプレッドシートにまとめよう。 ○大単元の学習問題に対するまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治参加の一つが「選挙」であることや、複数の候補者の中から自分の考えに近い候補者を選ぶことが政治参加の一つになることを確認する。</li> <li>「地方公共団体のはたらき」や「3人の候補者に対する投票」を通して、地方自治と自分たちの生活がどのようにつながっているかを確認する。</li> <li>小単元①「国の政治」と小単元②「地方自治」の学習を通して、「みんなが暮らしやすい社会をつくるために、どのように政治参加すればよいか？」に対する自分の考えを書くように促す。</li> </ul>

## 6.本時案

### (1) 本時の主眼

自分たちの学級は選挙への意識が高いことに対し、現在の若い世代の投票率は他の世代より低い傾向にあることや若者の多くは投票を棄権していることの現状に危機感をもった生徒が、飯田市市長選挙の模擬投票をする場面で、様々な立場から候補者の選挙公約を読み、個人で評価したり級友と評価を共有・検討したりすることを通して、身近な地域における自分の願いと地方政治への反映とを関連付けて考察し、自分なりの理由を持って(投票)表現することができる。

### (2) 本時の位置 (全13時間中の第12時)

前時：終末の場面で実際に飯田市市長選挙の公約の項目を確認し、次時(第12時)の学習問題を共有したうえで、なぜその項目に着目したのか理由を書き終えている。学習課題を設定し、各候補者の公約を読み評価するところから本時の始めを迎える。

次時：政治参加の一つが「選挙」であることや、複数の候補者の中から自分の考えに近い候補者を選ぶことが政治参加の一つになることを確認し、小単元①「国の政治」と小単元②「地方自治」の学習を通して、「みんなが暮らしやすい社会をつくるために、どのように政治参加すればよいか？」に対する自分の考えを書く。

### (3) 指導上の留意点

- ・スプレッドシートを使って考えを共有したい相手の目星をつけやすくする。
- ・気になる項目に沿って評価するように声掛けする。
- ・同じ項目でも友だちの考えと違いがあるか、理由を聞くように声掛けをする。

### (4) 本時の授業展開

	学習活動	予想される生徒の反応や意識	指導・支援 評価	時間
導入	学習問題：みんなが暮らしやすい飯田市をつくるために、3人の候補者に対して、誰に投票すれば良いのだろうか。			
	1. 今日の学習の見通しを持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちに関わる学校の政策は考えてくれているのかな。</li> <li>・ 国の政治と同じで、飯田市も大人向けの内容が多いかな。</li> <li>・ リニア新幹線ができることについて、具体的な対策を考えている人はいるのかな。</li> <li>・ おばあちゃんも一緒に暮らしているから、高齢者のことを考えた内容がいいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公約の評価の仕方と、学習プリントの書き方の説明をする。</li> <li>○ 項目を確認しながら学習課題を据える。</li> </ul>	5分
	学習課題：候補者の選挙公約を自分の一番関心のある項目に着目して、様々な立場から評価し、誰に投票すれば良いかを判断しよう。			
展開	2. 選挙公約を自分の関心のある項目に着目して個人で評価する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育て支援</li> <li>・ 男性の子育て参画・家事分担を推進することが書かれている。でもどうやって進めるのかな。</li> <li>・ 不妊治療の助成を強化するって書いてあ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一番関心のある選挙公約の項目を読ませる。関心の項目を中心に読むことができるように声掛けをし、評価を打ち込むように指示する。</li> </ul>	

	<p>3. 友だちと選挙公約の個人で評価したものを比較、検討する</p> <p>4. 個人で評価したものを見直し、投票する候補者を決める</p>	<p>る。若い女性への支援なのかな。</p> <p>●教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレの洋式化など設備について書いてある。確かにトイレがきれいになった。</li> <li>・子どもたちのスポーツ環境の充実、本に親しめる環境整備が書かれている。</li> </ul> <p>●コロナの影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関・医療従事者へのサポートが書かれていて働く人にとっては安心だと思う。</li> <li>・失業した人への就労支援が書かれている。</li> </ul> <p>●リニア新幹線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リニア通勤などを考えて地域居住を土地利用計画するって書いてある。</li> </ul> <p>○私は、教育のスポーツに○をつけたけど、友だちは△をつけていた。</p> <p>○私は、自分に関わる学校の設備について主に見たけど、友だちは子育て支援の大人の目線で評価していた。</p> <p>○自分が見た項目以外にも聞きたいな。</p> <p>◇自身の考えが変わる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○さんの考えを聞き、やっぱり A さんがいいと思った。</li> <li>・○○さんの考えを聞き、その項目もいいと感じたので B さんがいいと思った。</li> </ul> <p>◆自身の考えが変わらない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○さんの考えを聞いたけど、□□の項目が大事だと思うから C さんがいいと思った。</li> <li>・○○さんの考えを聞いたけど、私は□□が大事だと思うから A さんがいいと思った。</li> </ul>	<p>○なぜその項目をその評価 (○・△) にしたのか理由を書くように声掛けする。</p> <p>※チャレンジステップ 1</p> <p>余力がある生徒は、他の項目についても評価するように指示する。</p> <p>○読み取りが苦手な生徒には、どこから取り組めそうか机間指導の中で声掛けをする。</p> <p>○現状投票する候補者を決めさせる。その際、理由を書くように指示する。</p> <p>○自分が「○」つけたのに「△」つけた友だちを中心に聞けるように指示を出す。逆の評価も同様。</p> <p>○友だちの考えで自分の考えになかったもの、良いと思ったことをメモしてもらうよう促す。</p> <p>※チャレンジステップ 2</p> <p>余力がある生徒は、他の項目についても理由を考えておくように指示する。</p> <p>○友だちとの共有と検討を通して、最後に自分が投票する候補者を決めるように指示する。</p>	<p>15 分</p> <p>12 分</p> <p>8 分</p>
--	--	---	--	------------------------------------

<p>終末</p>	<p>5. 投票する</p> <p>6. 開票と振り返り</p>	<p>まとめ：1 時間を通して、考えたことをもとに、投票をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○さんは、学校の設備など私たちに関わることを大切に考えていたけど、やっぱり、おばあちゃんと暮らしていて高齢者への対策が大切だと私は思ったので A さんに投票しようと思う。</li> <li>・私は、△△さんが私と同じ、子育ての対策について良いと言っていたので安心して B さんを選ぶことができた。だから、選挙に行ってもいいかなって思って少し自信があった。</li> <li>・実際に公約を読んでみて、思った以上に私たち子どもや若者を対象とする政策も考えられていて驚いた。高齢者への対策も大切だと思ったけど、項目で見たときに子育て支援など飯田市の将来をしっかり考えた候補者に投票したいと思った。自分が大切にしたい項目で投票することも大事だと思った。</li> <li>(B 評価)</li> <li>・若者のことだけ考えていたけれど、友だちと話をすると高齢者も大切に地域になってほしいと思ったので、始め考えていた候補者と変えた。当選はしなかったけど、当選した候補者にもその考えが入っていたので、応援していきたいと思った。</li> <li>(B 評価)</li> <li>・同じ項目でも友だちとは考えが違った。よく考えて投票をすることができた。選挙権は大切な権利だから、投票には行きたい。</li> <li>(C 評価)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォームで投票を行う時間を設定する。投票する際に、なぜその候補者を選んだのか、理由も明記させる。</li> <li>※事前の選挙に対する意識調査を学習カードに記載し、フォームで回答する際、自分が投票に対応する意識がもともとどうであったか確認して、投票できるようにする。</li> <li>今回は全員投票する。</li> <li>投票することの政治参加について意識付けをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>B 評価</b></p> <p>投票するときの理由や選挙に向けての政治参加に対する自分の考えが書かれている。</p> <p>※C 評価の子どもへの手立て</p> <p>選挙公約の中で何に取り組んでほしいのか、関心のある分野は何かに着目させて、投票するときの自分の考えが持てるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に投票することが正解かではなく、繰り返し選挙ができ、投票できることがよりよい社会づくりや政治参加につながることを伝える。</li> </ul>	<p>10 分</p>
-----------	----------------------------------	---	---	-------------

(5) 見ていただきたい点

- ・スプレッドシートで評価を共有したことは、生徒たちにとって友だちの考えと自分の考えを視覚的に比較することに有効であったか。
- ・フォームで投票したことで、短時間で投票結果を示し、投票結果と自分の投票を踏まえて、振り返りを書くことにつながったか。

## あ と が き

下伊那視聴覚教育協会 副会長 安藤 利長

下伊那視聴覚教育協会では、下伊那郡全体の先生方が情報・視聴覚機器を道具として活用しながら「わかりやすい授業」「児童・生徒がより主体的、対話的で深い学びができる授業」を実現するための一助となり、先生方自身の職能向上のために寄与できることを願って研究大会や基礎実技講習会などの企画運営を行っています。

夏に行われた基礎実技講習会では、昨年度に引き続き喬木村教育委員会の長坂亮介先生を講師に迎え、「Google Classroom の基本操作と学習活動での利用」について開講しました。昨年の参加者から、次回も同じように実施してほしいという要望が多く寄せられましたので、本年度も同じテーマで開催させていただきました。内容については、視聴覚協会の委員が受講した先生方ひとりひとりについて、個別の課題にお答えするようにしました。講習後に「委員の先生方がマンツーマンで教えてくださり大変勉強になりました。使いながら疑問に思っていたことを今日教えていただいて解決することができました。夏休みに研修をすることができ、2学期に向けて準備をしていきたいです。」「2学期の授業で実際にチャレンジしてみたい。そんな思いを強くすることができました。」などの感想が寄せられ、受講者から好評をいただきました。この講座が参加者の先生方の日ごろの悩みを解決することのでき、ICTの技能を高めることができたと感じました。また、「それぞれのアプリに特化した講習会も開催してほしい。」との声もあり、先生方のニーズに応えられるような講習会になるように工夫していきたいと思えます。

11月に飯田市立追手町小学校・高陵中学校を会場に開催した下伊那視聴覚・情報教育研究大会では、多くの示唆を得ることができた有意義な研究会となりました。追手町小学校では「保健体育」を、高陵中では「社会」の授業をそれぞれ公開していただきました。追手町小学校の授業では、マット運動の様子を、タブレットを使って撮影し、自分の試技を確認したり、友だちの動画や参考となる動画を確認してから技に挑戦したりする様子が見られました。また高陵中学校の授業では、飯田市の市長候補の政策をスプレッドシートで比較して、生徒個々が注目する政策について自分の意見をスプレッドシートに書きこみ、他の生徒と意見を共有しながら考えを深めていました。

学校をあげて取り組んでいただいた両校の児童・生徒、先生方はもとより、大会運営にご協力いただきました飯田市教育委員会をはじめ、下伊那教育会、下伊那校長会のみなさまに深く感謝を申し上げます。さらに、研究会でご指導いただきました助言者の先生をはじめ、真摯にご討議くださいましたご参会の先生方に心よりお礼を申し上げます。

下伊那視聴覚協会、情報・視聴覚委員会では、これら研究大会・基礎実技講座の運営やHPの運営などにより、下伊那の情報教育・視聴覚教育発展のためにどのように関わっていけばよいか、よりよい方法を研究・推進しております。関係各位の皆様方にはこれからもご支援ご鞭撻のほどよろしく願いしたいと思います。

最後に、本委員会の活動をお支えいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。